

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-200426

(P2014-200426A)

(43) 公開日 平成26年10月27日(2014.10.27)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 F 5/10 (2006.01)	A 4 7 F 5/10 D	3 B 1 1 8
A 4 7 F 7/00 (2006.01)	A 4 7 F 7/00 L	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2013-78379 (P2013-78379)
 (22) 出願日 平成25年4月4日 (2013.4.4)

(71) 出願人 000158781
 紀伊産業株式会社
 大阪府大阪市中央区本町1丁目3番20号
 (71) 出願人 591016345
 梅田真空包装株式会社
 大阪府東大阪市御厨3丁目9番28号
 (74) 代理人 100079382
 弁理士 西藤 征彦
 (74) 代理人 100123928
 弁理士 井▲崎▼ 愛佳
 (74) 代理人 100136308
 弁理士 西藤 優子
 (72) 発明者 高島 優介
 大阪府大阪市中央区本町1丁目2番1号
 株式会社フロムコミュニケーションズ内
 最終頁に続く

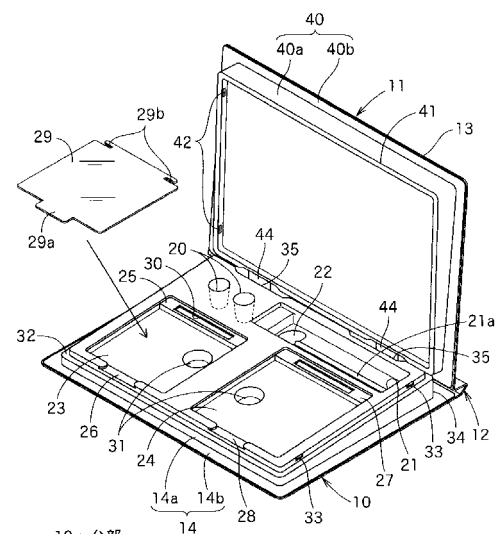
(54) 【発明の名称】 物品収納ケース

(57) 【要約】

【課題】 物品収納機能と物品開示機能とを兼ね備え、しかも全体が一つになっていて、別部材を製作する手間とコストが不要の、取り扱いやすい物品収納ケースを提供する。

【解決手段】 蓋部11を閉じた状態で物品を台部10上に収納し、蓋部11を開きその姿勢を固定した状態で上記物品を開示できるようにした物品収納ケースであって、上記台部10が、帯状シート材13の一端側に、型成形によって物品保持用の凹部21、23、24を有する凹凸形状が設けられた第一の膨出パーツ14によって構成され、上記蓋部11が、上記帯状シート材13の他端側に、型成形によって凹凸形状が付与された第二の膨出パーツ40によって構成され、上記ヒンジ部12が、上記帯状シート材13の、上記台部10と蓋部11との間に挟まれた所定幅領域によって構成されている。

【選択図】 図1



10: 台部
 11: 蓋部
 12: ヒンジ部
 13: 帯状シート材
 14: 第一の膨出パーツ
 21, 23, 24: 凹部
 40: 第二の膨出パーツ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上面に物品保持用の凹凸形状が設けられた台部と、その上面を蓋する蓋部と、上記台部に対し上記蓋部を開閉自在に連結するヒンジ部とを備え、上記蓋部を閉じた状態で物品を台部上に収納し、蓋部を開きその姿勢を固定した状態で上記物品を開示できるようにした物品収納ケースであって、

上記台部が、帯状シート材の一端側に、型成形によって凹凸形状が付与された第一の膨出部分を、その膨出部を上向きにして取り付けることによって構成され、上記蓋部が、上記帯状シート材の他端側に、型成形によって凹凸形状が付与された第二の膨出部分を、その膨出部を上向きに取り付けることによって構成され、上記ヒンジ部が、上記帯状シート材の、上記台部と蓋部との間に挟まれた所定幅領域によって構成され、上記ヒンジ部と台部との境界線上および上記ヒンジ部と蓋部との境界線上のそれぞれに、谷折りとなる折り目が形成されており、

上記第一の膨出パーツの膨出部には、物品保持用の凹凸形状と、蓋部を開いた状態でこの第一の膨出パーツに対し第二の膨出パーツを直立姿勢もしくは傾斜姿勢に係止するための係合部 D と、蓋部を閉じた状態でこの第一の膨出パーツと第二の膨出パーツとに係止するための係合部 E とが設けられており、

上記第二の膨出パーツの膨出部には、上記第一の膨出パーツの上面を蓋するための凹凸形状と、蓋部を開いた状態で上記第一の膨出パーツの係合部 D と係合しうる被係合部 D' と、蓋部を閉じた状態で上記第一の膨出パーツの係合部 E と係合しうる被係合部 E' とが設けられていることを特徴とする物品収納ケース。

【請求項 2】

蓋部を開いて第一の膨出パーツの係合部 D と第二の膨出パーツの被係合部 D' とに係合することにより、第一の膨出パーツに対し第二の膨出パーツが 90° を超え 100° 以下の角度をなす姿勢で係止されるようになっている請求項 1 記載の物品収納ケース。

【請求項 3】

上記第一の膨出パーツにおける膨出部の、第二の膨出パーツと対峙する側の立ち上がり部に、第二の膨出パーツとの係合部 D として凹部が設けられ、上記第二の膨出パーツにおける膨出部の、第一の膨出パーツと対峙する側の立ち上がり部に、第一の膨出パーツとの被係合部 D' として凸部が設けられているとともに、上記ヒンジ部内側に、両側の折り目と平行に延びる補助折り目が設けられており、

蓋部を開いた後、上記ヒンジ部の補助折り目を回転軸として上記ヒンジ部と蓋部との境界線上の折り目を谷折りから山折りに反転させ、上記第二の膨出パーツの凸部を第一の膨出パーツの凹部に差し込むことにより、第二の膨出パーツが第一の膨出パーツに対して係止されるようになっている請求項 1 または 2 記載の物品収納ケース。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、物品を収納して携帯することができるだけでなく、これを開いた姿勢を固定して、その収納された物品を開示して陳列等に供することのできる物品収納ケースに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、ファンデーションやリップカラー等といった化粧料の新製品を発売する際には、店頭において、その新製品を顧客の目を引くように陳列する他、そのサンプルを街頭や店頭で配布したりダイレクトメールで顧客に送付したりする等、さまざまな販促活動が展開されるようになっている。そのような販促活動の一環として、化粧品メーカー専属のビューティーアドバイザーが、新製品をテスターとともに顧客宅に持参し、顧客宅において新製品を紹介したりテスターを用いて実際に化粧を試すことが行われている。

【0003】

また、化粧品に限らず、例えば医薬品や化学薬品等についても、MR（メディカル・リプレゼンタティブ）やプロパーとよばれる営業担当者が、新製品やサンプルを病院や企業、研究所等に持参して販促活動を行うことも、よく知られている。

【0004】

このような販促活動に用いられる、新製品やテスター、サンプル等（以下「物品」と総称する）を収納するケースとしては、携帯に便利でコンパクトであるだけでなく、顧客の目の前でこれらを見栄えよく見せることができ、またテスター品等を出し入れしやすいものが求められている。

【0005】

上記物品収納ケースとして、例えば図5に示すようなものが提案され賞用されている（特許文献1を参照）。 10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】特許第3562756号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

上記物品収納ケースは、真空成形等によって型成形された透明プラスチック製の台部1と、同じく型成形された透明プラスチック製の蓋部2とで構成されており、上記台部1には、化粧料等の物品を収納保持するために、その物品の形状に合わせた凹部3が適宜の配置で設けられている。また、上記蓋部2は、上記台部1に被せて、蓋部2の内面2aを台部1の上面1aに重ねることによって、台部1の凹部3内に保持された物品をがたつくことなく収納保持した状態で持ち歩けるようになっている。なお、4は、台部1に収納された物品の突出部に対応する凸部である。 20

【0008】

そして、上記物品収納ケースには、台部1、蓋部2とは別に、図6に示すように、このケースに収納する物品の説明やキャッチフレーズ等を表示した広告パネル5と、台部1を手前側に傾斜させて物品収納面を見えやすくする支受ガイド6とが用意されており、上記台部1の後端部に設けられた隙間部7を利用して、上記支受ガイド6が差し込み保持されるようになっている。なお、上記支受ガイド6の中央部分は上方に延設されており、その延設部6aが台部1の隙間部7に設けられた切欠き部8から上方に突出して、広告パネル5と係合するようになっている。 30

【0009】

したがって、図示のように、上記広告パネル5と支受ガイド6を台部1に取り付けることにより、物品収納ケースを物品陳列台として用いることができ、利用の幅が広がる。また、客先を訪問して商品説明を行う際、ケースを図6に示す形にして説明を行うと、顧客が、その物品の特徴を理解しやすく、販促効果が高まるという利点を有する。

【0010】

しかしながら、上記の構成では、広告パネル5や支受ガイド6を紙材等で別に製作する必要があるため、コスト高になるという問題がある。また、上記物品収納ケースを店頭で物品陳列台として用いる場合は問題にならないが、携帯して客先に持ち歩く場合、台部1と蓋部2の間に、上記広告パネル5と支受ガイド6とを収納して携帯することになるため、客先で、蓋部2を外す際に、これらが中からすべり落ちやすいという問題を有する。また、広告パネル5と支受ガイド6を、いちいち付けたり外したりしなければならないため、顧客に煩わしい印象を与えるという問題もある。 40

【0011】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたもので、物品収納機能と物品開示機能とを兼ね備え、しかも全体が一つになっていて取り扱いやすく、別部材を製作する手間とコストも不要となる物品収納ケースの提供を、その目的とする。 50

【課題を解決するための手段】

【0012】

上記の目的を達成するため、本発明は、上面に物品保持用の凹凸形状が設けられた台部と、その上面を蓋する蓋部と、上記台部に対し上記蓋部を開閉自在に連結するヒンジ部とを備え、上記蓋部を閉じた状態で物品を台部上に収納し、蓋部を開きその姿勢を固定した状態で上記物品を開示できるようにした物品収納ケースであって、上記台部が、带状シート材の一端側に、型成形によって凹凸形状が付与された第一の膨出部分を、その膨出部を上向きにして取り付けることによって構成され、上記蓋部が、上記带状シート材の他端側に、型成形によって凹凸形状が付与された第二の膨出部分を、その膨出部を上向きに取り付けることによって構成され、上記ヒンジ部が、上記带状シート材の、上記台部と蓋部との間に挟まれた所定幅領域によって構成され、上記ヒンジ部と台部との境界線上および上記ヒンジ部と蓋部との境界線上のそれぞれに、谷折りとなる折り目が形成されており、上記第一の膨出パーツの膨出部には、物品保持用の凹凸形状と、蓋部を開いた状態でこの第一の膨出パーツに対し第二の膨出パーツを直立姿勢もしくは傾斜姿勢に係止するための係合部Dと、蓋部を閉じた状態でこの第一の膨出パーツと第二の膨出パーツとに係止するための係合部Eとが設けられており、上記第二の膨出パーツの膨出部には、上記第一の膨出パーツの上面を蓋するための凹凸形状と、蓋部を開いた状態で上記第一の膨出パーツの係合部Dと係合しうる被係合部D'と、蓋部を閉じた状態で上記第一の膨出パーツの係合部Eと係合しうる被係合部E'とが設けられている物品収納ケースを第1の要旨とする。

10

20

【0013】

また、本発明は、そのなかでも、特に、蓋部を開いて第一の膨出パーツの係合部Dと第二の膨出パーツの被係合部D'とに係合することにより、第一の膨出パーツに対し第二の膨出パーツが90°を超え100°以下の角度をなす姿勢に係止されるようになっている物品収納ケースを第2の要旨とする。

【0014】

さらに、本発明は、それらのなかでも、特に、上記第一の膨出パーツにおける膨出部の、第二の膨出パーツと対峙する側の立ち上がり部に、第二の膨出パーツとの係合部Dとして凹部が設けられ、上記第二の膨出パーツにおける膨出部の、第一の膨出パーツと対峙する側の立ち上がり部に、第一の膨出パーツとの被係合部D'として凸部が設けられており、とともに、上記ヒンジ部内側に、両側の折り目と平行に延びる補助折り目が設けられており、蓋部を開いた後、上記ヒンジ部の補助折り目を回転軸として上記ヒンジ部と蓋部との境界線上の折り目を谷折りから山折りに反転させ、上記第二の膨出パーツの凸部を第一の膨出パーツの凹部に差し込むことにより、第二の膨出パーツが第一の膨出パーツに対して係止されるようになっている物品収納ケースを第3の要旨とする。

30

【発明の効果】

【0015】

すなわち、本発明の物品収納ケースは、物品を保持する台部と蓋部とがヒンジ部を介して一続きに形成されているため、蓋部を開閉するだけで、簡単に、携帯に適した形態と陳列に適した形態とを切り換えることができ、取り扱いが簡単である。しかも、この物品収納ケースを、陳列に適した形態にする際、台部として用いる第一の膨出パーツに対し、蓋部として用いる第二の膨出パーツを直立姿勢もしくは傾斜姿勢に係止するための係合部Dと被係合部D'が設けられているため、わざわざ陳列用の別部材を差し込んだりしなくても、蓋部を開いて陳列に適した形態にした状態を安定的に保持することができる。したがって、訪問先で蓋部を開閉するだけで、簡単かつ迅速に商品説明やテストの試用を行うことができ、顧客に煩わしい印象を与えることがない。また、陳列用の別部材を製作する手間とコストが不要となり、経済的である。

40

【0016】

そして、本発明のなかでも、特に、蓋部を開いて第一の膨出パーツの係合部Dと第二の膨出パーツの被係合部D'とに係合することにより、第一の膨出パーツに対し第二の膨出

50

パーツが90°を超え100°以下の角度をなす姿勢で係止されるようにしたものは、蓋部を開いた状態で、物品収納ケース全体を安定して保持することができ、好適である。

【0017】

また、本発明のなかでも、特に、上記第一の膨出パーツにおける膨出部の、第二の膨出パーツと対峙する側の立ち上がり部に、第二の膨出パーツとの係合部Dとして凹部を設け、上記第二の膨出パーツにおける膨出部の、第一の膨出パーツと対峙する側の立ち上がり部に、第一の膨出パーツとの被係合部D'として凸部を設け、さらに上記ヒンジ部内側に、両側の折り目と平行に延びる補助折り目を設けたものは、蓋部を開いた後、上記ヒンジ部の補助折り目を回転軸として、上記ヒンジ部と蓋部との境界線上の折り目を谷折りから山折りに反転させて、上記第二の膨出パーツの凸部を第一の膨出パーツの凹部に差し込むことにより、蓋部を台部に簡単に係止することができ、好適である。

10

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】本発明の一実施の形態である物品収納ケースを示す外観斜視図である。

【図2】(a)は上記物品収納ケースを平たく開いた状態を示す平面図、(b)はその右側面図である。

【図3】(a)は上記物品収納ケースを閉じた状態を示す右側面図、(b)はその蓋部を途中まで開いた状態を示す右側面図である。

【図4】(a)、(b)はともに、上記物品収納ケースの蓋部を台部側に係止させる動作の説明図である。

20

【図5】従来の物品収納ケースの一例を示す斜視図である。

【図6】上記物品収納ケースの使用形態の説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0019】

つぎに、本発明の実施の形態を、図面にもとづいて詳しく説明する。

【0020】

図1は、本発明の一実施の形態である物品収納ケースを示す外観斜視図である。この物品収納ケースは、台部10と、その上面を蓋する蓋部11と、この蓋部11を台部10に対し開閉自在に連結するヒンジ部12とを備え、全体が、厚紙（厚み：1.0mm）からなる一枚の帯状シート材13によって一体的に連結されている。

30

【0021】

より詳しく説明すると、上記台部10は、この物品収納ケースを平たく開いた状態を示す図2(a)に示すように、平面視長形状の帯状シート材13の一端側に、型成形によって凹凸形状が付与された透明樹脂シート製の第一の膨出パーツ14を、その膨出部14aを上向きにして取り付けることによって構成されている。

【0022】

なお、上記第一の膨出パーツ14の帯状シート材13への取り付けは、第一の膨出パーツ14の型成形時にその周縁に形成されるフランジ部14bを帯状シート材13に接着剤もしくは両面テープ等を用いて接合することにより行われる。また、膨出パーツ14および帯状シート材13の材質によっては、両者を熱圧着してもよい。

40

【0023】

そして、上記第一の膨出パーツ14の膨出部14aには、その奥側の向かって左側に、小さな円形の開口を有する小凹部20が二つ並んで設けられている。また、その右側に、アイライナー等の棒状の化粧料（もしくはそのテスト）を収納保持するための、左右に細長い開口を有する凹部21が設けられている。なお、この凹部21の底面には、凹部21内を前後に仕切る突条21aが設けられており、また底面左側には、凹部21内に収納された化粧料を取り出しやすくするための深凹部22が設けられている。

【0024】

また、上記膨出部14aの手前側には、比較的大きくて浅い、四角形状の開口を有する二つの凹部23、24が並んで形成されており、これらの凹部23、24には、色の異なる

50

る複数のアイカラー等が並べて収容されたテスターパレットが嵌入されるようになっている。

【0025】

上記凹部23、24の開口縁部は前後に、ごく浅い段落とし部25～28が設けられており、この段落とし部25～28を利用して、アイカラー等の化粧料がこぼれて周囲を汚すことを防止するためのカバー29が取り付けられている（図1を参照。凹部24に取り付けられるカバーも同様の構成になっており、その図示と説明を省略）。すなわち、上記凹部23の奥側の段落とし部25には、左右方向に延びる帯状の切欠き穴30が設けられており、この切欠き穴30に、上記カバー29の奥側に設けられた左右のガイド片29bを嵌め込むことにより、上記カバー29を、凹部23の開口に取り付けるようになっている。このとき、カバー29の、手前に突出する延長部29aが、上記凹部23の手前側の段落とし部26の上に乗る、カバー29が開口内に落ち込むことを防止するようになっている。

10

【0026】

そして、この膨出部14aは、その頂面が手前に向かって下り傾斜に賦形されており、台部10を水平面に載置した状態で、上記膨出部14aの頂面が、手前から見やすいようになっている。したがって、上記膨出部14aの凹部21、23、24に保持された各種化粧料を一目で見ることができ、またその出し入れがしやすいようになっている。

【0027】

なお、上記膨出部14aの左奥側に設けられた二つの小凹部20の底面は、台部10の底面を構成する帯状シート材13に当接するようになっており、膨出部14aの頂面が凹んで形が崩れるのを防止するガイドの作用を果たしている。また、同様の理由から、膨出部14aの手前側の凹部23、24の底面にも、その底面が帯状シート材13に当接する小凹部31がそれぞれ設けられている。そして、上記左奥の小凹部20は、物品の収納や陳列に利用することができる。

20

【0028】

また、上記膨出部14aの周縁部は、全周にわたって一段低く段落としされて、環状の段差部32が形成されている。この段差部32は、台部10に対して蓋部11を閉じる際に、第一の膨出パーツ14を、後述する第二の膨出パーツ40と係合させるための係合部Eとなるもので、段差部32の左右両側の前後2個所に、上記第二の膨出パーツ40側に設けられた凹部（図1参照）42と係合するための突起33が、それぞれ形成されている。

30

【0029】

さらに、上記膨出部14aの奥側の立ち上がり面34には、図2に示すように、左右2個所に、やや幅の広い凹部35が設けられており、その左右両側の開口縁部は、補強のためにやや前後に盛り上がった形状になっている。これら凹部35は、蓋部11を開く際に、第一の膨出パーツ14に対し、蓋部11側の第二の膨出パーツ40を直立姿勢もしくは傾斜姿勢に係止するための係合部Dとなるもので、この凹部35内に、上記第二の膨出パーツ40側に設けられた凸部44が差し込み保持されるようになっている。

【0030】

一方、前記蓋部11は、帯状シート材13の、上記台部10を取り付けた側と反対側の端部に、台部10と同様、型成形によって凹凸形状が付与された第二の膨出パーツ40を、その膨出部40aを上向きに取り付けることによって構成されている。

40

【0031】

上記第二の膨出パーツ40の帯状シート材13への取り付けも、第一の膨出パーツ14の場合と同様、第二の膨出パーツ40の型成形時にその周縁に形成されるフランジ部40bを帯状シート材13に接着剤もしくは両面テープ等を用いて接合することにより行われる。また、膨出パーツ40および帯状シート材13の材質によっては、両者を熱圧着してもよい。

【0032】

50

そして、上記第二の膨出パーツ40の膨出部40aは、その周縁部を残して内側が凹状に賦形され、全周にわたって杵状に突出している。この杵状部41は、蓋部11を閉じる際に、上記第一の膨出パーツ14の係合部E（具体的には段差部32）と係合しうる被係合部E'となるもので、この杵状部41の左右の内側には、上記第一の膨出パーツ14に設けられた段差部32の突起33と係合しうる凹部42が設けられている（図1参照）。

【0033】

また、上記膨出部40aの杵状部41において、第一の膨出パーツ14に対峙する側の立ち上がり面43には、図2に示すように、左右2個所に、やや幅の広い凸部44が設けられており、その左右両側の縁部は、前記第一の膨出パーツ14側に設けられた凹部35の開口縁部の形状に合わせて、やや凹んだ形状になっている。これら凸部44は、蓋部11を開く際に、第一の膨出パーツ14に対し、蓋部11側の第二の膨出パーツ40を直立姿勢もしくは傾斜姿勢に係止するための被係合部D'となるもので、上記凸部44を、第一の膨出パーツ14側に設けられた凹部35内に差し込むことにより、蓋部11を起立姿勢に保持できるようになっている。

【0034】

なお、上記膨出部40aは、前記第一の膨出パーツ14の頂面が傾斜しているのに対応して、蓋部11を閉じた状態〔図3（a）を参照〕で手前になる側が厚く、奥側が薄い、傾斜した形状になっている。これにより、蓋部11を台部10に重ねて閉じた状態において、物品収納ケースがどの部分も同じ厚みの、本のような形状になる。

【0035】

そして、上記台部10と蓋部11とを連結するヒンジ部12は、上記帯状シート材13に取り付けられた第一の膨出パーツ14と、第二の膨出パーツ40との間に挟まれた所定幅領域によって構成されている。そして、上記ヒンジ部12と台部10との境界線上に、谷折りとなる折り目〔図2（a）において鎖線Pで示す〕が形成されており、上記ヒンジ部12と蓋部11との境界線上に、同じく谷折りとなる折り目とそれに重なるミシン目〔図2（a）において破線Qで示す〕が形成されている。また、上記ヒンジ部12の内側にも、上記折り目P、Qと平行に延びる補助折り目とそれに重なるミシン目〔図2（a）において破線Rで示す〕が形成されている。なお、本発明において、折り目について、「谷折り」、「山折り」という場合は、この物品収納ケースの内側から帯状シート材13をみた状態を基準にしている。

【0036】

したがって、上記ヒンジ部12の折り目P、Qおよび補助折り目Rを利用して、つぎのようにして蓋部11を開閉することができる。すなわち、まず、蓋部11を台部10に重ねて閉じた状態を図3（a）に示す。そして、上記ヒンジ部12の折り目P、Qを回転軸として蓋部11を上方に開く。この状態を図3（b）に示す。

【0037】

つぎに、上記ヒンジ部12の補助折り目Rを回転軸として、蓋部11側の折り目Qを谷折りから山折りに反転させて、図4（a）に示すように、蓋部11側の凸部44を手前に押し出すようにする。そして、その状態で蓋部11を下方に下げることにより、図4（b）に示すように、上記蓋部11側の凸部44を、台部10側の凹部35内に差し込んで保持させる。これによって、蓋部11を、台部10に対し、略垂直の起立姿勢で安定的に保持することができる。

【0038】

この物品収納ケースによれば、化粧料等の物品を保持する台部10と蓋部11とが、台部10と蓋部11とをつなぐ一枚の帯状シート材13を利用したヒンジ部12を介して、一続きに形成されているため、蓋部11を開閉するだけで、簡単に、携帯に適した形態〔図3（a）に示す形態〕と陳列に適した形態〔図1、図4（b）に示す形態〕とを切り換えることができ、取り扱いが簡単である。そして、上記蓋部11の内側面に、予め物品の広告や商品説明に関する表示を印刷しておくか、同様の表示が印刷されたカードを差し込み保持するようにしておけば、上記陳列形態にする際、蓋部11を開くだけで、陳列用の

10

20

30

40

50

別部材を取り付ける必要がないため、顧客に煩わしい印象を与えることがなく、販促効果の高い、優れたものとなる。また、陳列用の別部材を製作する手間とコストが不要となり、経済的である。

【0039】

しかも、上記台部10と蓋部11とが、ともに真空成形等の型成形によって凹凸形状が付与された膨出パーツ14、40を用いて構成されているため、全体が軽量で取り扱いやすい。そして

て、型成形による凹凸の賦形は、複雑な形状であっても短期間で美麗に仕上げることできるため、収納する物品の形状や陳列の仕方に応じた、さまざまなバリエーションのケースを短い納期で提供することができる。このため、上記物品収納ケースは、化粧料の販促の他、医薬品、食品、文房具等、各種商品の販促用として、広く用いることができる。

10

【0040】

なお、帯状シート材13は、上記の例では厚紙を用いたが、厚紙に限らず、プラスチックシート、複合シート等、各種のものを用いることができる。そして、その厚みも、適宜に設定されるが、例えば0.1～2.0mm程度に設定することが好適である。すなわち、帯状シート材13の厚みが薄すぎると、ケースの強度が低下して保形性が悪くなるおそれがあり、逆に、厚みが厚すぎると、開閉動作がスムーズにいかず、ヒンジ部12に無理な力がかかって折り目（ミシン目を含む）P等が外れやすくなるおそれがある。

【0041】

また、上記帯状シート材13の表面（蓋部11を閉じた状態で表になる面）に、文字や模様を印刷する場合は、その表面が平滑で、印刷特性に優れているものが好適である。もちろん、デザインの点から、和紙テイストのもの、毛羽立ったもの、凹凸模様が付与されたもの等を用いてもよい。

20

【0042】

一方、第一、第二の膨出パーツ14、40に用いられる樹脂製シート材は、必ずしも透明である必要はなく、型成形によって賦形できる樹脂材料であればどのようなものであってもよい。例えば、ポリエチレンテレフタレート（PET）の他、ポリプロピレン（PP）、ポリエチレン（PE）、ポリスチレン（PS）等の熱可塑性樹脂があげられる。なかでも、再生PETを用いることが、コストおよび省資源の点で好適である。また、透明な樹脂製シート材の片面に、異なる材質のシートやフィルムを積層して強度を高くしたり、色や柄のついたシートやフィルムを積層して、より印象的なデザインのケースとしたりすることができる。

30

【0043】

そして、上記樹脂製シートの厚みも、上記の例に限らず、用いる材料や目的とする膨出パーツ14、40の大きさ等によって適宜に設定されるが、通常、0.1～0.8mmの範囲に設定することが好適である。すなわち、厚みが薄すぎると型成形が容易でなく、保形性の点でも好ましくない。逆に、厚みが厚すぎると、物品収納ケース全体が重たいものとなり、携帯に不便となり、また省資源の点からも好ましくない。

【0044】

また、上記樹脂製シート材に凹凸形状を賦形するための成形方法としては、真空成形の他、圧空成形やプレス成形等、樹脂製シート材を型成形によって凹凸形状を賦形する各種の成形方法を用いることができる。

40

【0045】

さらに、上記の例では、この物品収納ケースを陳列形態で用いたときに陳列面が見やすくなるように、台部10の膨出部14aの頂面を、手前に向かって下り傾斜にするとともに、蓋部11の膨出部40aの頂面も、それに合わせた傾斜にしたが、このように傾斜形状にすることは必ずしも必要なく、台部10も蓋部11も、その頂面は水平であってもよい。

【0046】

また、上記台部10と蓋部11に設けられる、両者の係合のための係合部D、Eと被係

50

合部 D'、E' の形状は、上記の例に限らず、互いに係合保持できるものであれば、どのような形状になっていてもよい。

【0047】

ただし、上記の例のように、蓋部 11 を起立姿勢に保持するために、台部 10 側に係合部 D として凹部 35 を設け、蓋部側に被係合部 D' として凸部 44 を設けるとともに、ヒンジ部 12 に補助折り目 R を設けて、蓋部 11 を開いて台部 10 側に差し込むようにしたものは、その作業がしやすく、しかも蓋部 11 を非常に安定した形で保持することができるため、好適である。

【0048】

そして、上記台部 10 に対し蓋部 11 を起立姿勢で安定的に保持するには、上記台部 10 の第一の膨出パーツ 14 に対する蓋部 11 の第二の膨出パーツ 40 の角度〔図 4 (b) において θ で示す〕が、 90° を超え 100° 以下となるように設定することが、とりわけ好適である。なお、場合によっては、両者の係合部 D、被係合部 D' に傾斜を設ける等して、蓋部 11 を、もっと後方に傾斜した状態で保持するようにしても差し支えない。ただし、その場合は、蓋部 11 を開いたとき、蓋部 11 の重みでケース全体が後方にひっくり返らないように、台部 10 の底面に厚板を貼付する等の調整が必要となる。

【0049】

また、上記台部 10 に設けられる、物品収納用の凹凸形状と、これを蓋するための蓋部 11 の凹凸形状も、上記の例に限らず、目的とする物品の形状やケース全体のデザインや機能に合わせて、適宜に設定することができる。

【産業上の利用可能性】

【0050】

本発明は、物品を収納して携帯することができるだけでなく、これを開いた姿勢を固定して、その収納された物品を開示して陳列等に供することのできる物品収納ケースに好適に用いられる。

【符号の説明】

【0051】

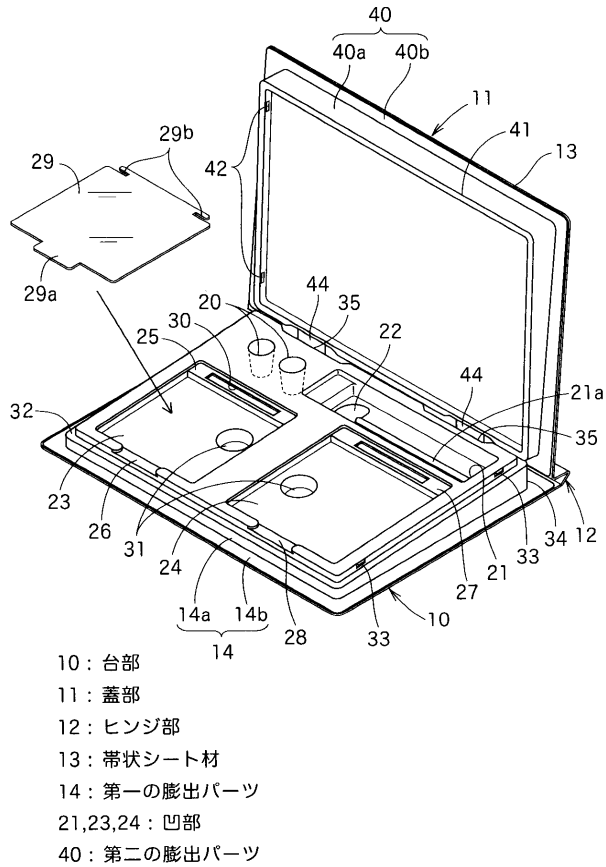
- 10 台部
- 11 蓋部
- 12 ヒンジ部
- 13 帯状シート材
- 14 第一の膨出パーツ
- 21、23、24 凹部
- 40 第二の膨出パーツ

10

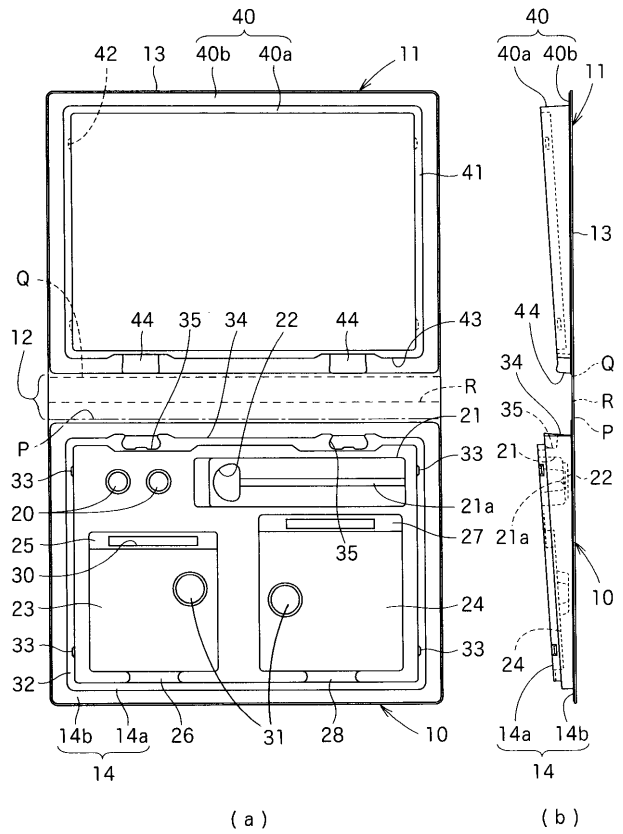
20

30

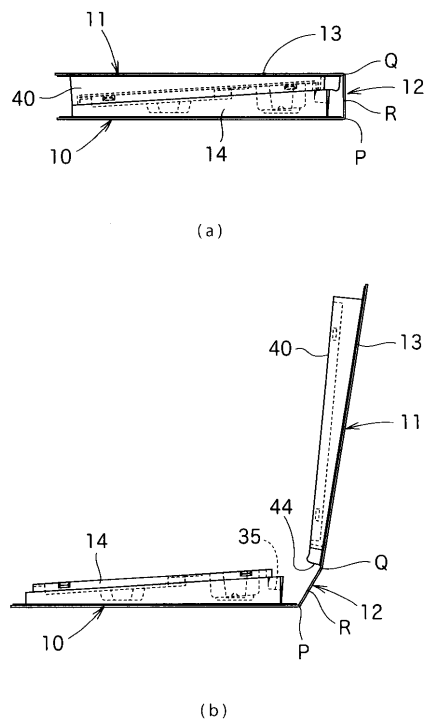
【図 1】



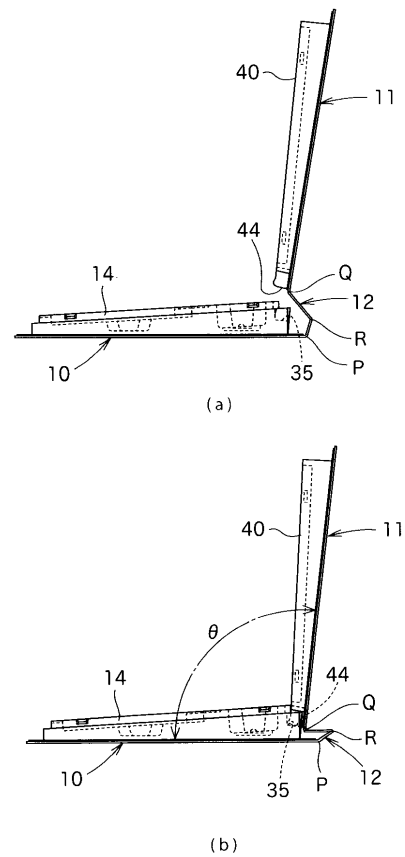
【図 2】



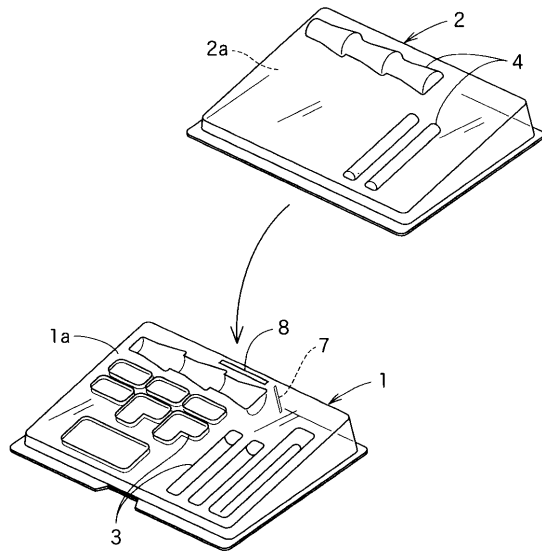
【図 3】



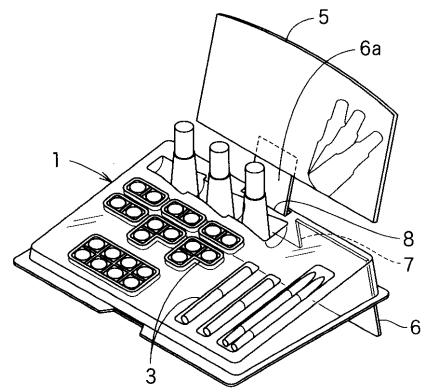
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(72)発明者 仲田 あずさ

大阪府東大阪市御厨 3 丁目 9 番 2 8 号 梅田真空包装株式会社内

Fターム(参考) 3B118 AA21 CA12 DA29 DA32